

	3月まで	4月から
乳がん検診の 国と県の指針	国 ・30歳代はなし ・40歳以上はマンモグラフィと視触診を2年に1回	・30歳代はなし ・40歳以上はマンモグラフィを2年に1回(視触診は任意)
	県 ・30歳代は視触診を毎年 ・40歳以上はマンモグラフィと視触診を毎年	・30歳代はなし ・40歳以上はマンモグラフィと視触診を毎年

30代の視触診廃止

乳がん検診指針
今月から県変更

県は4月から、市町村生労働省はこれまで、30

た。

が行う乳がん検診に關 歳代では検査を必要と 県は2004年、厚労 新指針では40歳以上に する指針で、県独自に せず、40歳以上でマン 省と異なる指針を策定。 ついて、罹患者が 推奨してきた30歳代へ モグラフィ(乳房エ 40歳以上はマンモグラフィに上がることもやマンモ の視触診を廃止する。 ックス線撮影)と視触 40歳以上はマンモグラフィに上がることもやマンモ 国が視触診だけの検査 診の併用検査を2年に 「2年に1度」ではなくとしのリスクがあるた の有効性を否定したた 1度行うことを推奨して 「毎年」行い、30歳代は め、これまで通りマンモ

めで、30歳代には指針 きた。しかし、昨年7月 マンモグラフィの精度 グラフィーと視触診の併 に明記しないものの、超 に「視触診は死亡率の減 や被ばくのリスクを考 用検査を毎年行うとし 音波検査と自分でしこり 少効果が十分ではない」 慮し、視触診だけの検査 た。 の有無などを確かめる自 などとして「40歳以上は を毎年するように定めて 厚労省によると、国と 己検診を呼び掛けている 2年に1度、マンモグラフィを毎年行うように定めて 違う方針を打ち出してい

乳がん検診について厚 診は任意」と指針を改めて検診をしてきたとい 指針を検討した協議会の

超音波、自己検診呼び掛け

責任者、川崎医科大学病院の園尾博司院長は「マンモグラフィは万能ではなく、視触診との二重チェックが有効という考えに変わりはない。検査は2年に1度よりも毎年行う方が早期がんの発見率が高い」と県独自のデータがあり、40歳以上は従来の方針を変えないことにした。30歳代も油断せず、自己検診をし、超音波検査を受けてほしい」と話している。

(二羽俊次)